

【鉄道唱歌】（明治 33 年 5 月）地理教育鉄道唱歌 東海道編（一番のみ）

♪ 汽笛一声 新橋を はやわが汽車は 離れたり
愛宕の山に入り残る 月を旅路の 友として

【身延線鉄道唱歌】 作詞 小澤 肇 推敲協力 身延線鉄道唱歌の会 （作曲 多 梅稚）

- | | | |
|----|---|---|
| 1 | きてきいっせい ふじえき わ の れっしや はな
汽笛一声 富士駅を 我が乗る列車 離れたり | さんじゅうきゅうえき くじゅうきろ ふつうれっしや たび
三十九駅 九十軒 普通列車の旅とせん |
| 2 | ゆのき たてぼり いりやま せ きんだいせいし はっしょうち
柚木 堅堀 入山瀬 近代製紙の発祥地 | さんだいいだう ひと そ が きょうだい じしゃ
三大仇討ち一つなる曾我兄弟の 寺社もあり |
| 3 | みぎ れいほうあお ふ じ ね くも おび
右に霊峰仰ぎつつ 富士根にたなびく 雲の帯 | ふじのみや と ざんぐち せんげんたいしや わ みず
富士宮は 登山口 浅間大社に湧き水に |
| 4 | にしふじす さ み あごやま うみ すな
西富士過ぎれば左に見える 安居山あたりの海の砂 | かわ ぬまく ぼ ふじさん
川もないのに沼久保で しばらく富士山さようなら |
| 5 | さんだいきゅうりゅうふ じ が わ そ ゆ しぼかわ
三大急流富士川に 沿って行きます芝川 | たけのこうめ さんち みず と まち
筍 梅の産地なり 水とみどりに富める町 |
| 6 | せんごくぶしょう のぶながこう くびづか にしやまほんもんじ
戦国武将 信長公 首塚 西山本門寺 | へいけ わかむしやこれもり ほか いなこ おく
平家の若武者維盛の お墓が稲子の奥にあり |
| 7 | いなこ するが あと こうしゅうとおしまよ
稲子で駿河を後にして 甲州十島良いところ | むかし みのぶ じ ごぼんしょ いま でんしや じどうしや
昔は身延路御番所で 今は電車で自動車で |
| 8 | いで よりはたうつふな なんぶ ひまつ そらこ
井出では寄畑内船へ 南部の火祭り空焦がす | おうしゅうなんぶ そ ち いふう いま つた
奥州南部の祖の地なり 威風は今に伝えらる |
| 9 | みのぶ えき お たち にちれんしゅう そうほんざん
身延の駅に降り立ちて 日蓮宗の総本山 | ごじゅうのとう さいけん し だ さくらぎはな そ
五重塔の再建に 枝垂れ桜木花添える |
| 10 | しんげんこう かく しもべ つか いや
信玄公の隠し湯の 下部で疲れ癒されん | ゆ おくこうしゅうきんざん たけだ しさき ぐんしきん
湯の奥甲州金山は 武田氏支えた軍資金 |
| 11 | ぜんこくかくち もくぞう のこ もくじきしょうにん
全国各地に木像を 遺せし 木喰上人の | う いちのせ びしょうかん やま うえ ひとた
生まれは一ノ瀬 微笑館 山の上でも人絶えず |
| 12 | いち せく など か いいわま いんしょう なたか さと
市ノ瀬久那土甲斐岩間 印章で名高き里にして | むか にしじまわ し しょか のぞ かな まち
向いの西島和紙づくり 書家の望みの叶う町 |
| 13 | しかい ひら かじかざわ しゅううん な ご
視界が開けて鯀沢 舟運の名残り今はなく | し てつろ こうすんこうりゅうよ あ なり
敷かれし鐵路に抛るところ 甲駿交流夜明け也 |
| 14 | いちかわだいもんはなび ち え もんじゆ か いうえの
市川大門花火まち 知恵の文殊は甲斐上野 | だんじゅうろう で ともどもわす
團十郎の出たところ ゆめゆめ共々忘れなん |
| 15 | ふえふきがわ う わた み かじゆ やさい
笛吹川を打ち渡り 見よや果樹やら野菜やら | かじゅうおうこく こうふぼんち はなわ
果樹王国と謳わるる 甲府盆地の花輪なる |
| 16 | しほう やま め くもつ やまなみ たか
四方の山に目をやれば 雲突く山脈いや高く | ろうじゆ ふか ぜんこうじ いさわ ゆ し こ かん
老樹の深き善光寺 石和の湯けむり指呼の間 |
| 17 | しゅうてんこうふ ちゅうおうせん の つ ひと かずおお
終点甲府は中央線 乗り継ぐ人も数多く | つつじ さき ゆめ たけだ いせきまも
躑躅ヶ崎の夢のあと 武田の遺跡守れかし |
| 18 | とき ひと か やまなししずおかりょうけん
時は人を替えれども 山梨静岡両県の | あか へいわ さと み のぶせん とも さか
明るく平和な郷づくり 身延線と共に栄えあれ
み のぶせん とも さか
身延線と共に栄えあれ |

【身延線の沿革】

- 1 創設の認可 明治44年（西暦1911年）4月26日
- 2 社名 富士身延鉄道株式会社
- 3 資本金 4百万円
- 4 工事着工 大正2年1月8日
- 5 部分開通 大正9年5月18日 富士駅から身延駅まで汽車運行
- 6 全面開通 昭和3年3月28日（1928年）
富士駅～甲府駅 電車運行 88.4 km
- 7 国鉄移行 昭和16年5月（1941年）日本国有鉄道 線名を身延線とす
- 8 民営化 JR東海 昭和62年4月（1987年）
社名 JR東海道旅客鉄道株式会社
- 9 付記 身延線全線開通80周年行事と併せて富士宮駅高架化着工祝賀行事富士宮駅で
開催 平成20年4月6日（2008年）

身 延 線 下 り	【始発】
	富士
	柚木
	堅堀
	入山瀬
	富士根
	源道寺
	富士宮
	西富士宮
	沼久保
	芝川
	稲子
	十島
	井出
	寄畑
	内船
	甲斐大島
	身延
	塩之沢
	波高島
	下部温泉
	甲斐常葉
	市ノ瀬
	久那土
	甲斐岩間
	落居
	鰻沢口
	市川大門
	市川本町
	芦川
	甲斐上野
	東花輪
	小井川
	常永
国母	
甲斐住吉	
南甲府	
善光寺	
金手	
甲府（終点）	